

小田原

広

報

まちづくり情報誌

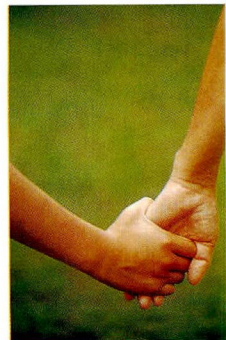
1999 8月号
8/1

平成11年8月1日発行
No.752

ただいま!

おかえり。

特集 家族つて何?



アメリカに住んでいる娘から、折に触れカードが届く。誕生日やクリスマスに、家族にあててカードやプレゼントを贈るのは、欧米では一般的な風習である。父の日や母の日という名目がなくても、家族のことを思いやり、気持ちを伝えてもらえるのはうれしいものだ。日本では、自分にとって大切な人には贈り物などをして、家族同士での手紙のやりとりはあまりしないように見受けられる。言わな

くても分かることでも、言ってもらって悪い気をする人はいないのだから、少しもつたいない気もする。

家族の縁というものは切っても切れないものだと思っている人が、日本人には多いようだ。民族的な特徴と言ってしまおうのはいささか乱暴だが、諸外国にしばらく滞在した経験やその時に出会った人たちのことを考えてみると、これは日本的な発想と言ってもいいよ

うに思われる。特にアメリカでは、まず自分の生活ありき、という空気を感ずるからだ。アメリカでは子供の方も、高校生になったらお小遣いは自分で稼ぐもの、そして大学生になったら学費などの経済面も自分で何とかするものと、独立心旺盛で家族内でのけじめをつけるという印象がある。

私自身は、思い起こしてみると、あまり家族というものを意識したことはなかった。しかし、渋沢栄一という明治期の日本の歴史に大きく関わった人間と縁があることが、私の人生に少なからず影響を与えているのは事実である。彼の膝に座り、一枚のスナップ写真に収まった幼い日のことを私は記憶していないが、尊敬に値する人物が自分の曾祖父であることは、私にとって誇らしく、うれしいことであるからだ。

一方で、私の父は忙しくてまず家にいなかったし、母は習い事などをしていて、家族団らんといった家庭らしい雰囲気はあまりなかった。私の身の回りのことはお手伝いさんがすべて面倒を見てくれたため、父母との接点はあまりなかった。自由に育てられたと言えば聞こえはいいが、別の言葉で言うと放っておかれたようなもので、寂しいねと、妹と話した記憶がある。

私も大人になり、そんな父の人生観をさまざまな場面で感じるがあったが、自分が結婚したときに、子供を大事にしよう、そして夫婦仲良くしていこうとまず考えたのは、幼いころ寂しい思いをした反動だったのかもしれない。

私は、海外で仕事をするのが多く、子供

独立宣言

渋沢雅英





たちを小さいころからいろいろな国に連れて行った。知らない世界に突然連れて行かれたらだれだって不安になるが、できるだけ子供に不安感を与えたくはなかった。

そんなとき、イギリス人の夫妻から、あるアドバイスをいただいた。

一つは「子供を育てるときには、夫婦が同じ態度をとること」。両親が共働きなどで忙しくて、そろって子供と接する機会が少ないような状況のとき、それぞれから違ったことを言われると、子供は混乱し悩んでしまうのだ。両親二人が同じことを考え、同じように主張すれば、何が正しくて何が悪いことなのか子供に伝わる。父母が同じ態度をとっていれば、子供は頼る基準ができて「安心」するので、夫婦でルールを作りなさい、という意味である。

もう一つは、「子供のことだけを考える時間、すべて子供に与える時間を、一日一回作る」と。

親と一緒にいられないと、子供は意外と寂しい思いをしているものである。だから5分でもいいから、子供が遊んでいるときに、くだらないことだとか思わないで同じように興味を持って接してあげる。すると、子供は親が自分に関心を持っていると思つて安心するのだ。これは本当にありがたく、役に立つアドバイスだった。

子供が成長していく過程で必要だと思つたことの一つは、「独立心」を養うことである。自分の意思で人生を選択できる力を身につけるということだ。外国にいるとき、ほんの小さな子供が「私は大きくなったら〇〇になる」とし



つかりした夢を語る場面によく出会ったが、日本の高校生は、親や学校から保護され支配されているのか、そのためにはどういう方向に進めばいいのかを、考えていないように見える。自分で考えなさいという教育を受けていない、ということかもしれない。

自分の前に、道は自然に開けるものではない。でも今の子供たちは、引かれたルールの上を小さいときから走り続けていて、そのルールをはずれたときに途方に暮れてしまい、どうしたらいいのか分からないだけでなく、先のことと考える力もないように感じることがある。自分の人生の計画を考えさせるように仕向ける教育、そして進路を選択する際に役に立つことを教える必要性があるのだろうか。

また、子供だけでなく、家族の中での夫と妻も、自分のやることや存在価値を見つけて独立した方がいいと思う。お互いに独立してないと、「私はこう思う」という意見の交換である「対話」ができない。対話ができないということは、相手に自分の思いが伝えられないということだ。お互いに自分の意見を主張しなければ、対話はおろか「おはよう」というような「会話」もなくなってしまう。それでは、夫婦であっても離婚している状態と大差がない。もちろん、主張しすぎても、ギャップが広がりすぎて離婚につながる可能性はある。大切なことは、二人でいることの利点を感じ、二人の世界を共有しようと努力することだと思つた。

たとえば、妻が見ているテレビ番組を一緒

に見てみる。後であれこれ言い合うのもまた楽しいものだ。そして、「今日は楽しかったね一緒に見られて良かったね」と家族の存在を確認する。私の妻は料理を作るのが好きで、外国で暮らしている時も、その国その国の食材を上手に生かし、いろいろと工夫した料理をテーブルに並べてくれた。そして私は、料理の上手な妻に感謝しつつ、作ってくれたおいしい料理を食べるのが大好きである。

自分の存在価値がどこにあるのか、どこに求めるかは、人それぞれなのだ。

夫婦間の人間関係も、努力して作っていくものではないだろうか。この人とやっつけていくんだという決心がないと、とても続かない。心の対話をしようと、意識的に努力しなければいけない。子供だって、夫婦の仲が悪ければ心配だし、良ければ安心するものである。みんなを不安にさせないように、不安をなくすようにと努力すれば、心は平和になると思う。

若いころは、夫婦の愛情も大きいが緊張も大きいだろう。この年齢になってよく感じるのは、お互いのことを分かってきているということ。安心感である。妻と結婚したことは、私にとって人生の中で成功したことの一つなのだと、今までを振り返ってみて思う。

家族とは、言ってみれば運命共同体だ。そこで楽しく過ごすためには、共通項が多い方がいい。愛情とか温かさといった、人間が生きていく上で必要なものは、みんな家族が原点であると私は感じている。

渋沢雅英

イースト・ウエスト・セミナ
ー代表理事、学校法人東京女
学館理事長・館長、アジアセ
ンター-ODAWARA (城山)
代表。1925年ロンドン生まれ。
東南アジアを中心に、国際的
な相互理解を深めるため活躍
中。日本実業界の父とも言わ
れる渋沢栄一氏は曾祖父にあ
たる。著書に「太平洋にける
橋―渋沢栄一の生涯」「革命
のデザイン」「父渋沢敬三」日
本はアジアか」などがある。



そのことを知ったのは、家族で旅行中の香港市内のホテルだった。英字新聞には、映画の中のこのように焼けただれた神戸市内の写真。火災現場のすぐ近くには、自ら開業する歯科医院のあるビルが写っていた。

神戸が大変だ

神戸市西区に住む古井巨^{ふるいわたる}さんは、妻・亜紀さんと幼稚園に通う6歳の空くんとの三人暮らし。兵庫区で歯科医院を営んでいた。4月には空くんの新入学を控え、それに合わせるように3月に東灘区のマンションに引っ越すことになっていた。

1月18日朝、関西空港に降り立つものの、神戸方面に向かう交通機関はない。古井一家は、大阪に住む巨さんの姉の家に、とりあえず身を寄せることにした。神戸の惨状が刻々

と伝わってくる。交通機関の復旧もめどが立たないようだ。数日後、神戸の自宅に戻ることにしたが、神戸に直接向かうことはできない。まず和歌山に向かい、フェリーで四国・徳島へ。高松、岡山と移動し、逆側から神戸に入る。神戸に近づくにつれ道はガタガタと荒れ始め、初めて見る被災地・神戸の街の姿に愕然とした。ようやくたどり着いた我が家が無事だったのは、奇跡のように思えた。

自宅には水道も、ガス、電気も来ていて、生活できることを確認すると、巨さんは、早速バイクで母の住む六甲の実家、兵庫区の歯科医院と見て回った。状況はさらにひどいことが分かった。道路はあちこちで寸断されており、あまりに危険で思うようにスピードが出せない。橋も渡れるのかどうか。車はもちろん、バイク、人も入り乱れていて最悪だった。朝早く発った巨さんが帰宅したのは、深夜近くになっていた。

離れるのが怖い

実家は水道はストップしているがとりあえず無事。心配していた歯科医院は火災からは免れていたものの医療器材は倒れ、電気、水道、ガスなどライフラインはすべてストップしていた。

古井家には、歯科医院の片づけと、ときおり訪れる患者の応急処置が待っていた。復旧した駅まで地下鉄で行き、そこから一時間ほど歩いて歯科医院に通うのが二人の日課となった。

「幼稚園の再開にめどが立たないので、空も連れていきました。安全といえる場所もなく、家族が離ればなれになるのが怖くて。だから、空はいつも連れて歩きました。」(亜紀)

夫妻で歯科医院の整理やときおりやってくる患者の診療をしていると、いつも空くんのことを見守っているわけにはいかない。ふと気がつく、遊び盛りの空くんが、一人おとなしく医院の片隅で遊んでいる姿が目につくようになる。街には、まだがれきが散乱し、近くには傾いた建物もある。危険な状態だ。外ではもちろん、友達と遊ぶことなどまったく考えられない状況だった。

「果たしてこのまま、空を連れていけることがいいことなのか?。次第に夫妻は不安になってきた。『どうしたらいいんだろう』。古井夫妻の悩みは深刻だった。

古井巨さん(39歳)「途方に暮れるというのはまさにこのこと。しばらくは何をする気も起こりませんでした。しかし、家族の生活をこれからどうしていくのかと考えたとき、不思議に力がわいてくるような気がしました」



決断

「小田原に住む姉からの電話がきつかけでした」(亜紀)。姉とは小田原市栢山に住む広山紀世さんである。広山さんは二人の子供もすでに手を離れ、夫との二人暮らし。神戸に住む妹・亜紀さんの家族を気づかっただけのものだった。

「小田原でも被災児童の受け入れがあることを知らせました。神戸での生活は想像できませんでした。空は赤ちゃんのこと、面倒を見ていたこともありませんので、大変心配していました」(広山) 6歳足らずの空くんには、状況の変化があまりに大きすぎ、明るく元気だった子が、夫妻のそばで静かに座っている。子供なりに、親に迷惑をかけまいとしているようだった。

古井夫妻は夜を徹して話し合い、そして決めた。

「親子が離ればなれになるといった悲愴感はありませんでした。姉を信頼してましたから。それでも、やはりさみしいものです」。

古井夫妻の言葉は、子を持つ親ならだれでも同じ気持ちであろう。

新幹線は新大阪までしか復旧していない。古井夫妻は迂回路をとりながら、何とか新大阪までたどり着き、迎えに来てくれた広山さんに空くんを預けることができた。震災から十日たった1月27日、空くんは小田原の広山さんの家へやってきた。

1月27日

しんかんせんへののって
おたきゆうにのりかえて
かやまにきました。

(空くん絵日記)



二つの生活

広山さん宅で暮らし始めた空くんは、寝室に家具や掛け物があるのを異常に怖がった。神戸で街中がれきの山となっていた被災地を目の当たりにしていた空くんは、傍で見る以上にショックを受けていたのだろう。

それでも、報徳幼稚園に通い始めた空くんは、案外明るく元気だった。あいさつだけで帰る予定だった通園初日、あつという間に友達の中に溶け込んでしまい、予定を変更して一日幼稚園で遊ぶことになるほどだった。

「神戸ではひとりぼっちで遊んでいたから、友達に飢えていたのでは」と、広山さんはその日のことを振り返る。園では、すでに制服や通園カバン、お道具箱などがすべてそろえられていた。とにかく、広山さんとしてはほっと胸をなでおろす思いだった。

毎朝、お弁当を作り、自転車に乗せて空くんを報徳幼稚園まで送るのが、広山さんの日課となった。

しばらくすると、空くんは園の人気者になっていた。明るい性格と得意のサッカーは、たくさんの友達を引きつけ、いつの間にか輪の中心にいる姿があった。「ゆうくん」や「まみちゃん」。近所にも友達ができた。

「もともと明るい子ですから。幼稚園の先生や近所もとても気づかってくれて、すんなりとこちらの生活に溶け込んでいったようです」。(広山)

それでも、親が恋しい年ごろ。手紙を書いたり、その返事を首を長くして待っていたという。このころ、空くんはこんな手紙を送っている。

「パパママげんきですか。それもげんきです。パパなにをしていますかママなにしていますか」

「そら(ぼ)はんをいつ(ぼ)いたへています。パパ(ぼ)にかいてね。ママ(ぼ)にかいてね」

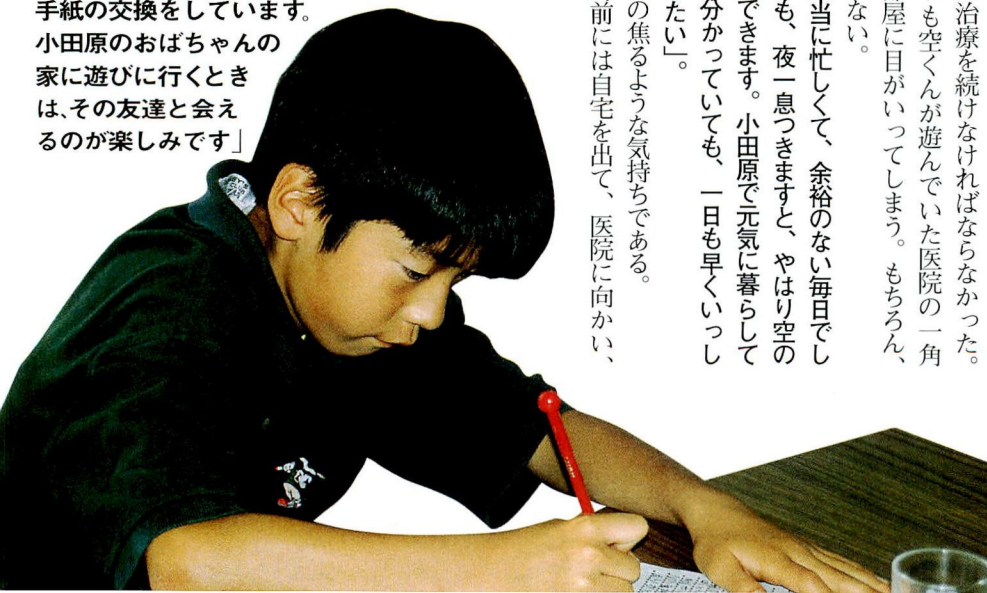
そのころ、古井夫妻は、歯科医院の立て直しの懸念だった。自宅では食料などもだいぶ手に入るようになってきたが、医院周辺の復旧はなかなかはかどらなかつた。器材が倒れ、ガラスが散乱している。人が歩ける程度までに整頓するのに一週間もかかってしまった。レントゲンなどは、修理に出さなければ使えないものにならなかつた。それでも、一日何人か来院してくるので、ガスも水もない状態で、応急処置的な治療を続けなければならなかつた。ふと、いつも空くんが遊んでいた医院の一角にある小部屋に目がいつてしまう。もちろん、空くんはいない。

「昼間は本当に忙しくて、余裕のない毎日でした。それでも、夜一息つきますと、やはり空の顔が浮かんできます。小田原で元気に暮らしていることは分かっていますが、一日も早くいっしょに暮らしたい」。

亜紀さんの焦るような気持ちである。朝、8時には自宅を出て、医院に向かい、

古井空くん(11歳)

「今も報徳幼稚園の先生や友達と、手紙の交換をしています。小田原のおばちゃんの家遊びに行くときは、その友達と会えるのが楽しみです」





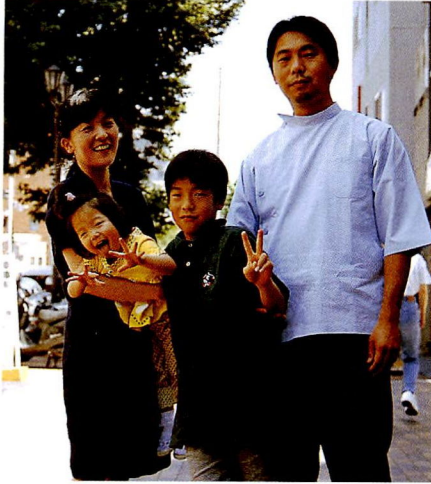
10時から午後3時まで整理整頓と患者の治療。それから、食料を持って六甲の実家へ行き、巨さんの母の様子をうかがう。自宅に戻るのには夜遅く。こんな生活がしばらく続いていた。がれきを積んだトラックが道路を埋め、そのトラックからこぼれ落ちたがれきが散乱している。あちこちで家の解体が進み、ヘルメットやマスクなしでは歩けないほどだった。街の風景が白黒写真のように見えた。

そのころ、報徳幼稚園から古井さんあてに、一通の手紙が届いた。空くんが元気で園生活を送っているという報告に、園庭でサッカーをしている空くんの写真が同封されていた。巨さんと亜紀さんは、指でなぞりながら、長い時間その写真を見つめていた。

三人で再び

神戸のまちが、ゆっくりと復興してくる。医院の水道はまだ止まったままだが、空くんが通っていた幼稚園が2月末から再開することになった。

2月中旬ごろ、古井夫妻は東灘区のマンションに引っ越す件は断念した。あまりに激しい生活の変化に、空くんが戻ってきたときのことを考えると、今の自宅から通える小学校に進む方がよいと考えたからだ。



「空を呼び戻そう」。空くんが小田原に行つてから三週間たち、さみしさも限界に来ていた。幼稚園が再開されるならばと、夫妻の意見は一致した。生活の立て直しと歯科医師としての使命の狭間で必死でがんばってきた夫妻にも、ようやく元の暮らしを取り戻せる日がやってきた。

2月17日、報徳幼稚園では空くんを送るお別れ会が開かれた。一月足らずの園生活だったが、優しくあった山田先生、「だいくん」「しゅんまくん」、今もすぐに思い出せる友達がいっぱいできた。たくさんの折り紙がプレゼントされ、その折り紙には空くんへのメッセージが書かれていた。空くんは報徳幼稚園での楽しかった思い出に、サッカーの次にお別れ会をあげている。小田原での生活は忘れられないものになった。

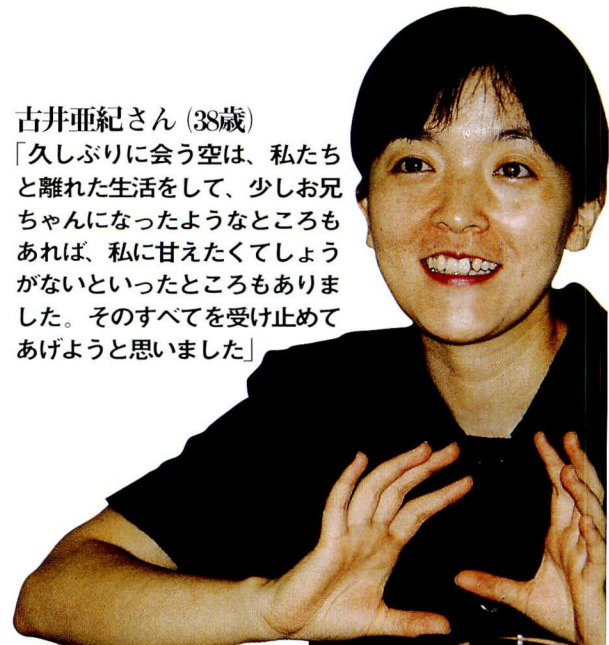
広山さん宅で、三週間ぶりに対面した親子だったが、空くんはふくれた表情をしている。久しぶりのパパとママに、口をとんがらせている。うれしい気持ち、栢山の友達と別れなければいけないさみしさ、あの神戸に帰らなければならぬという恐怖感。それぞれが入り乱れて複雑な表情となったのだろうか。亜紀さんが声をかけても、答えようとしなかった。それでも、日記にはこう書かれていた。

2月17日
きょうママと。パパがいるよ
うれしい。

(空くん絵日記)

久しぶりに家族三人で散歩に出かけてみた。雪をたっぷりいただいた富士山が青空にそびえ、酒匂川は松並木を風に揺らしながら、豊かな水量をゆつたりと下流に運んでいた。

「空は、いい街で暮らしていたんだな」。夫妻は、久しぶりに三人並んで歩いたこのときの小田原の風景を、今でも天然色で覚えているという。「本当にきれいな景色でした」。



古井亜紀さん(38歳)
「久しぶりに会う空は、私たちと離れた生活をして、少しお兄ちゃんになったようなところもあれば、私に甘えたくてしょうがないといったところもありました。そのすべてを受け止めてあげようと思いました」

家族って何？

巨さんは、現在、歯科医院のほかにも、アメリカで研修した最新の咬合治療のセミナーを歯科医を対象に開き、忙しい毎日を送っている。

「今も、テレビで地震のニュースを見ると当時の恐怖感がよみがえってきます。今の生活をつくづくありがたく感じます」。2歳になる四人目の家族、心子ちゃんを膝に乗せながら亜紀さんは語る。

そして、尊敬する父の後ろ姿を追いかけるように、空くんは「サッカーの上手な歯医者さんになる」という目標に向かって、サッカーに、遊びに、そして勉強にとがんばる毎日である。

「地震をきっかけに『家族』というものを意識するようになったと思います。それは、空の成長、妹・心子の誕生とともに、さらに強いきずなとして」。

最後に、古井さん夫妻に尋ねてみた。家族とは何ですか？
「むずかしい質問ですが、「一番大切な仲間」ではないでしょうか」。



家族、それは 最終的に帰るところ

「子どもと生活文化協会(CLCA)」副代表
「はじめ塾」(寄宿生活塾)主宰

和田重宏さん

近すぎて、よく見えない

実のお子さんを入れると家庭内に子供が10人いらっしゃるんですね。寄宿生活塾というところで、子供たちは親元を離れて生活しているわけですが、それにはどっという利点があるのでしょうか。

和田 子供と家族が一時離れて生活することで、お互いに見えてくるものがあるんですよ。近くにいると、分かっているようで分かっていないことに意外と気付かないものです。家族だと、感情の入れ込みや甘えがあつて、相手を客観的に見ることができないことがありますね。近すぎるために、かえって見えな

いんです。子供たちがここに来たのは、親が海外赴任するからとか不登校が原因とか、それぞれに事情があります。でも、家庭内に問題があつてもなくても、離れて生活することでどの家族のきずなも一層強まってきます。

血のつながりより
仲間意識

市内城山で寄宿生活塾を開いている和田重宏さんには、一緒に生活している家族が11人いる。親元を離れて生活している9人の子供たちと、寝食を共にしているからだ。どんなに遠く離れていても、ふと思いをはせるのは家族。離れているからこそ相手を思いやり、そして優しくなれる場合もある。血のつながっていない子供たちと生活している和田さんに、家族についての考えを伺った。

近すぎてよく見えなくなつたときにはちよつと遠くに離してみるのも効果的だということですね。ところで家族というと、血縁関係をまずイメージする人が多いと思いますが。

和田 家族には、親子とか夫婦とか兄弟姉妹とか、いろいろな関係がありますね。でも夫婦には、血のつながりがありません。家族って共同生活者だと思ふんです。必要なのはみんな仲間であるという意識で、必ずしも血のつながりが必要なのではないでしょうか。

血がつながっている兄弟は、分かり合っているのが当たり前だと思つているからちよつとしたことでいがみ合うけれど、血がつながっていない者同士だと違つて当たり前だから、寛大に許し合えます。血のつながりのない方が、いい距離感を保つていけて、共同生活するにはいいようにも思います。

家族と離れて共同生活をしたら、自分自分のことはしないとけませんね。

和田 家には、親が全部面倒を見てくれますからね。ここでは、たとえば風邪をひいたとしても、自分で何とかしなければいけません。中学生くらいの子が自分一人の力で解決できると、自信がきます。そして、今まで面倒を見てくれた親に対する感謝の気持ちも出てきます。

年齢や生い立ちの違う者が同じように生活するということ、違いを認め合つていけるようになりなす。いろいろな人間がいることに、子供たちは自分で気付きます。気付けば自分勝手なわがままも言わなくなりますよ。

家族と離れることと共同生活をすることから、自分で発見するんですね。

和田 共同生活でいろいろ経験を積んで力をつける、冷静に親と話し合ひができるようになりなす。ただ反発するのは、自分に自信がないからです。親と対等に話す力がないから、話し合ひにならないわけですね。

私の所に、小学3年生の時から不登校だった子がいました。ここに来たときには中学2年生でした。話を聞くと、学校に行けないからと言って親が精神病院に連れて行ったことを、



和田 家族には、親子とか



ずっと恨んでいました。でもここで生活して力をつけていくうちに、あの状況では仕方なかったと、親の立場も理解できるようになったんです。親を許せるようになり、家族でいろいろ話し合っ、家に帰っていききました。

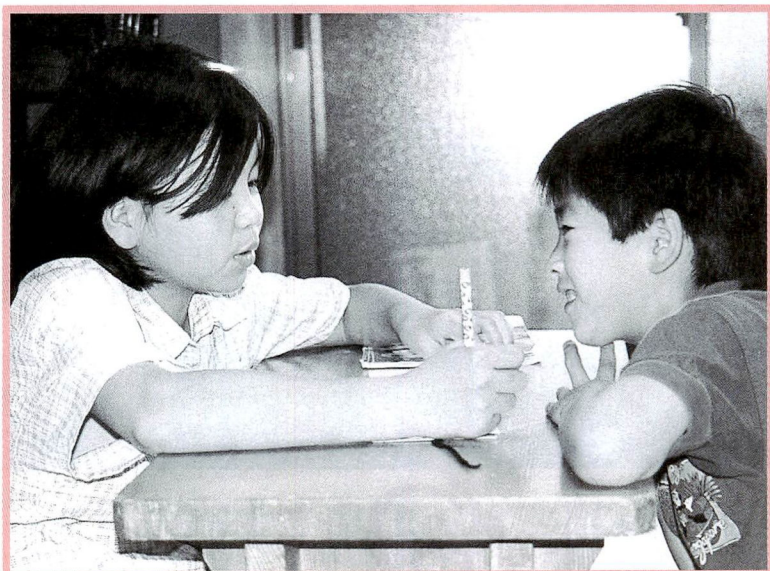
今、子供の数が減っているのに、不登校とか家庭崩壊とかは増えていますね。

和田 原因はよく分かりませんが、家庭崩壊に至るまでは一つのパターンがあるようです。

たとえば子供が不登校になったとき、親は原因が分からないのに、「みんな学校に行っているのに、なぜあなただけが行けないの」と子供を責めます。でも本当の所は、どうして行けなくなってしまうのか子供も分からないので、努力のしようがないんです。そのうちだんだん、「子育てはお前に任せていたのに」と父親が母親を責めたり、三世同居の場合は「私たちが子供を育てたときにはこんなことにはならなかった」と祖父母が母親を責めたりします。責める方向が子供から母親に変わっていくんです。このまま母親が辛い思いを重ねていくと、最終的に離婚や家庭崩壊などへ追い込まれてしまうみたいです。そういう状況でここに来た家族もありましたよ。

生活のリズムができれば、自分を取り戻せる

そういう時、どんなふうに対処するのですか。



和田 たとえば不登校の場合、学校に行けなくなった子供に、「行け」というのは無理なことです。「何だか分からないけど、行けなくなっちゃった」のですから。私はとりあえず、「行かなくてもいいよ」「ここがキミのいるところだよ」と言います。まず安心感を与えるんです。すると、みんなよく眠るんですよ。今まで安心できなかった、眠れなかったんですね。

そのうちに、ご飯の支度や掃除など、生活に必要なことをみんなと一緒にやり始めます。それまで昼夜逆転の生活を送っていた子供が多いのですが、手足を動かして働くことでだんだん生活のリズムができてきます。生活のリズムができれば、自分を取り戻せるんです。

生活のリズムを身につけるのが大切なんです。そうやって子供が自分を取り戻している間、親の方にも何か変化はあるのでしょうか。

和田 親ということで子供に対して気負っていた部分が、だんだんとれていくようです。お互いを認め合えるようになっていきます。家庭内暴力を振るっていた子供たちに話を

聞くと、「将来に対する深い不安感があった、いたたまれなくてやった」と言います。

彼らは子供なりに、「どう生きるか」というような、とても深く難しい問題を考えているんです。そういう質問をされたときに、「お母さんもお父さんもよく分からないので一緒に考えよう」と正直に言える親なら子供も信用します。子供の話を聞いてあげられる、本当の意味での対話ができる家族なら決裂しません。

最近の家族を見ていて、何か思ったことはありますか。

和田 男性である父親は自分の経験に基づいて考え発言する、と言われています。自分がそれでうまくいったので、子供にもそれを押しつけようとする。それは少し乱暴なやり方ですね。最近言われている父親復権の「権」は、権力ではなくて權威。言わなくても周囲の人が分かるという、存在感のことなんです。

それに対して、女性である母親の発言は直感に基づくそうです。チョウウのメスは、どの葉に卵を産むかを本能で選んで決めます。だれにも教えられていないけど、子供のためにはどうしてあげるのがいいか分かっているんです。

どちらがいいとか悪いとかいうことではありませんが、女性の直感力に耳を傾け、それを構築することに長けている男性が援助する、という考えの方が、今のような変化の激しい社会に対応しやすいのかもかもしれませんね。

家族って何だと思えますか。

和田 ここにはこの良さがあるし、家族のいる家には家の良さがあります。ここは、寄り道というか止まり木みたいなもの。

家族は、ふるさとでありよりどころですから。最終的に帰るところですよ。





大切な仲間

進む少子化の原因を調べたアンケート結果では、「1位 お金がかかる。2・3位 心理的・年齢的、肉体的苦痛。4位 自分の時間がなくなる」。

これについて、女優の斉藤由貴さんが神奈川新聞でこんなことを述べている。

「そりゃそうだけど、それを越えて余りある何かが存在するからこそ、人間は何千年も何万

年も子供を産み、生命を子孫に伝えてきたのではないだろうか。もちろん、選択は人それぞれで一概には言えないけれど。

朝日新聞の世論調査では、「いま父親は、家族の中で大黒柱のような存在だと思えますか」の質問に、男女あわせて66%の人が「そう思う」と答えたようだ。「父親復権」が進んでいるのかもしれない。

最近、新聞で「家族」をテーマにした記事がよく目に留まる。忙しすぎる現代人だが、

日々の生活の原点について、考えてみようということだろうか。

家族観といっても、人それぞれ、時代によっても、民族によっても違うはず。おのおの理想的というものはあるにしても、かくあるべきという家族像などはないのだろうか。

間。

「家族崩壊」という言葉が使われはじめて久しい。しかし、さ

まざまな家族の話をもつてみると、そんなことはないと感じてしまう。崩壊したように見える家族であっても、それは互いの誤解から生じたことで、歩み寄れば必ず理解し合える。なぜなら、おのおのは家族を求めあっているからだ。

楽天すぎるであろうか？

自分のことのように

地球人として、日本人として、小田原人として、地域の中で、さらに最小の生活単位として家族があり、そして個人がいる。否応なく、私たちはそういう枠組みの中で、日々暮らしている。

家族といっても個人の集まり。それぞれ考え方は違う。しかし、家族はもっとも大切な仲間だから、何かがあれば、みんなが自分のことのように、喜び、怒り、悲しみ、楽しむ。少し範囲を広げてみたらどうだろうか。甲子園の高校野球で、神奈川県代表チームを応援するように、オリンピックで日本選手の活躍を期待するように、地域のことでも自分のことのように考えてみる。さらに小田原市のこと、国のこと、地球のこと。

まちづくりを考えるとき、もう一度原点に戻って家族について考えてみよう、身近な存在「家族」を見直すことで、今当たり前のように生活している「まち」づくりのヒントにならないだろうか、そんなことを思い描きながら、今回の特集を企画した。

家族を考える



家族って何なのかを考える上で手がかりとなりそうなのは、今回の特集でご登場いただいた方々の話の中で、「仲間」という言葉が共通のキーワードだったことだ。「もっとも身近で、頼りになる、大切な仲





ところで あなたにとって…

家族を意識するときはいつ？

- ・帰宅の遅い子供を待っているときやだれかが病気をしたとき (40代・男性・既婚)
- ・年をとるにつれ、だんだん母に似ていく気がする時 (20代・女性・未婚)
- ・朝、いつてらっしゃいと家を送り出してもらう時 (20代・男性・既婚)



- ・人間ドックで複数の項目に「要再検査」の印がついたとき (40代・男性・既婚)
- ・夫と子供の寝顔。そっくりなんです。

- ・転職を考えたとき (20代・女性・既婚)
- ・病気やけがをしたときの愛情ある介護 (50代・男性・既婚)
- ・「肉親」という感じがもてる人たちと損得勘定なしのつきあいができているとき (30代・男性・既婚)
- ・家族のだれかが一週間不在のとき (20代・男性・既婚)

- ・感動するような出来事があったとき、「分けて合いたい」と家族を意識します。 (50代・男性・既婚)
- ・酔って電車を乗り過ごし、終電が行ってしまった後の木枯らし吹く冬のホームにて (20代・女性・既婚)
- ・ (30代・男性・既婚)

家族といつしよにいて楽しいと感じるときはいつ？

- ・いつしよに食事をしたり、買い物に行ったりといったごくふつ々の時間 (20代・女性・未婚)
- ・祝い事があって乾杯するとき (40代・男性・既婚)
- ・居間でくつろいだり、食事をしたりしているとき (20代・男性・未婚)
- ・旅先で母が日常の家事から解放されて、のびのびしているとき (20代・女性・未婚)



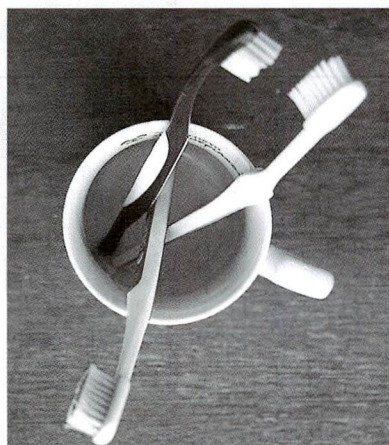
- ・互いに善意を感じるとき、楽しいと感じます。話題が合うほど年代は近くはないし、友人のように自分から選べるわけではないから、互いの善意がなければやっつけられない。 (20代・男性・既婚)

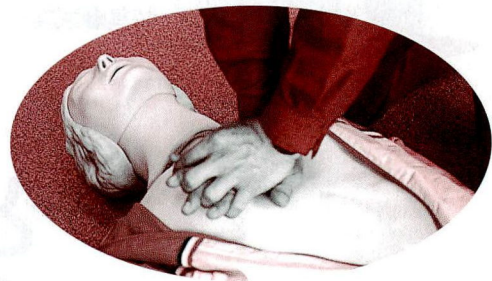
- ・他人から○○家というフィルターで見られるとき (20代・男性・未婚)
- ・妻の笑顔 (50代・男性・既婚)
- ・一日の出来事を話しながら、食事しているとき (20代・女性・既婚)
- ・休日の朝、子供が私の布団に入ってくる時 (30代・男性・既婚)

家族から思い浮かぶ言葉は？

- ・アウトドア (20代・女性・既婚)
- ・思いやり、協力、忍耐 (20代・女性・未婚)
- ・きかんしゃトーマス (30代・男性・既婚)
- ・サザエさん (30代・女性・既婚)

- ・夫や肉親に対しては「愛情」、夫の母、義姉に対しては「責任」 (20代・女性・既婚)
- ・こたつ (50代・男性・既婚)
- ・最終的に帰る場所 (20代・女性・未婚)
- ・「飲み過ぎないでね」 (40代・男性・既婚)
- ・きずな、支え、安心感 (20代・男性・未婚)
- ・「愛」ですね。 (20代・女性・既婚)
- ・とっちゃん、がんばれ！ (40代・男性・既婚)
- ・あたたかいうち (家・内) (20代・女性・未婚)
- ・団らん・しあわせ・たすけあい (20代・女性・既婚)





突然、家族が呼吸停止。 あなたは助けられますか？

3分で50%、5分で25%。それが呼吸停止したときに生き返る可能性の限界です。あなたはその重大な局面で適切な救急手当ができませんか。知識と経験があれば、大切な家族を助けられるかもしれません。今回は、市民の生命を守る最前線・消防本部(前川)を取材しました。



広報レポーター
信濃幸江

不安と緊張の中での講習

車の免許を取得するとき、救命講習がカリキュラムにあるので、ほんの少し体験したことがある方もいるだろう。しかし、それだけの知識では、パニック状態の現場で適切な救急手当をすることは難しい。

救命講習を受けるにあたって、救急手当のコツについて消防隊員に聞いてみた。

「いざというときに動転しないで対応する方法は」の問いに「繰り返し訓練することが大切です」と即答。隊員の答えは明瞭だ。

事前説明が終わって、さあこれからのよいよ蘇生法の実習へ…。全く経験のない私は、不安半分、好奇心半分でドキドキしながら実習が始まった。メモを取りながら講習を受ける。

隊員がていねいに説明しながら、ダミーの人形を相手にテキパキと模範実技を見せている。いよいよ私の出番だ。

人工呼吸を行う。

「アレッ！人形の胸が膨らまない。いけない。そうか、鼻をつまむのを忘れてた」。もう



もし、これが本当に私の家族だったら。思わず、息の吹き込みにも力が入る。

一度やり直し。またダメ。こわごとと人形に私の口を当てているので、息が漏れてしまふのだ。

困り果てて顔を上げると、隊員が真剣な

表情で私を見ている。まるで実際の現場にいるような緊張感だ。

「そっだ。今、私がいる瞬間。これが、一刻を争う大切な時間なのだ」。気を引き締め、ガバツと人形に口を押し当て、ガバツと息を吹き込む。やっと胸を膨らませることができた。

突然駆け込む消防隊員 救命報告に青ざめる私

ほっとしようとしたその矢先、ほかの隊員が駆け込んできた。そして、緊急出動から帰ったばかりの隊員が、講習指導にあたっていた隊長に現場報告をする場面に立ち会わせてもらうことができた。

「食事中に母が脳いっ血で倒れて、現在心肺が停止している」とのご家族からの電話が第一報。かなり錯乱していたらしい。一刻を争いながらも、まず通報者を落ち着かせ、電話でCPR(心肺蘇生法)を指示。

市長随想

未熟家族

文 小澤良明

しばらく他所よそに行っていた下の息子が勤務の都合で家から通う、と突然のように帰って来た。

就職が決まって家を出たもうその次の日から、皆が皆何か変、と家にぽっかり穴があいたような気分になっていたので、急な朗報を耳にして、「何処へ行くのか次男坊鴉かあや：とか母や妻を元気づけていた私にしても、何やらホンワカ暖かい気持ちになった。どうも我が家は伝統的にいつまでたつても子離れ、親離れできない未熟家族のようである。

私が育つた家庭は、独裁的権力を思うがまま行使した父、その父にあくまでも従順な母と、私たちが子供が四人の六人家族であった。父は最後まで「家族の長は死ぬまでオレだ。オレの目の黒いうちはみんなの面倒は必ずキチンと見る。それがリーダーというものだ。」と頑固一徹な父なりの家族論を言い、子供たちがそれぞれ成人して自立してもその父の持論はゴウも揺るがなかった。強烈な父のパワーは父亡き後も私たちに少なからぬ影響を与え、嫁いだ姉や妹はともかく、私と弟は「いつまでも親離れできないよな」、と時々顔を合わせたでは微苦笑する場面が今でもあるのである。思い起こすと

救急の基礎実技

①倒れている人を発見



②本人に呼びかけ意識の有無を確認



③大きな声でまわりの人に助けを求め、救急車を要請



④口の中の異物を確認、あれば取り除く



⑤気道確保



⑥呼吸確認



⑦人工呼吸



⑧脈が確認できなければ心臓マッサージで心肺蘇生



⑨あとは、⑦～⑧をあきらめずに繰り返す

●さあ！ 思い立ったら救命講習会！

仲間が集まれば、いつでもできる。9月9日は「救急の日」。救急手当の講習会を希望に応じ開きます。心肺蘇生(人工呼吸)・止血法・骨折・けが・溺水・やけどなどの救急手当を実技を中心に学びましょう。

時間 約3時間

対象 1組10～20人で 申込 消防本部 ☎49-4410



思わぬタイミングで、隊員からの救命現場の報告。これが真実。これが救急最前線！

実は脳いっ血ではなく、食物がのどに詰まっていたのだ。運良く、家族が心臓マッサージで胸を押したことで、衝撃でものを吐き出したという。隊員が救急車で駆けつけたときは、心肺停止状態。すみやかに心肺蘇生法を実施し、病院収容時には脈拍が再開した。

**時間との闘い
果たして私は…**

通報があつてから救急車が到着するまでの平均時間は、どんなに急いでも約5分。ところが、呼吸が停止してから生き返る可能性は、3分で50%、5分で25%なのだ。隊員が到着するまでの現場での一分一秒の対応が命の分かれ目になる。

もし家族が目の前で突然倒れたら、私はそ

ほんの何分か前に、隊員・家族の連携で停止した状態から心肺が再開したのだ。報告の言葉一つひとつに、緊張した現場の様子が生々しくと伝わり、その場にいた私もいつのまにか直立不動の姿勢で聞き入っていた。



取材に協力していただいた消防本部のみなさん。

の場で大切な命を救うことができるだろうか。次にここを訪れるときは、救命講習会の修了証を手にして帰ろうと、心に決めて消防本部をあとにした。

父のあの頑迷な家族観は、ある意味ではちょっとも子離れできない裏返しであつたのかも知れないが…。

今、我が家の家長として父ほど个性的かつ強烈な君臨統治は私にはできないし、またする積もりも無い。しかし少なくとも、「家族はいつまでも家族、父親である私はいつまでもファミリーのリーダー、まさかの時はいつでもみんなが助け合う。」という父譲りの基本的家族観は時代遅れと笑われるかも知れないが二人の息子にも小さいころから言いさせてきた。

核家族化、伝統的家父長制の崩壊、親子観の変化、家族や家庭の荒廃、とまるで積み木くずしのようになっている。家庭のありか社会現象である。家庭のあり様や家族観もさまざまだが、ほかのだれにもその適否は論ぜられない。それぞれの事情や歴史があるからである。しかし人間社会の核は個人であるし、濃い血でつながった個人で形成される家族、家庭である。確固とした家族観を持つた家庭が集まる地域は良い地域であらうし良いまちである筈である。

未熟家族と言われるかも知れないが、息子たちの世代でも確とした家族観を失わない我が家であり続けて欲しいと願うのである。



インターネットの普及で私たちは、格段に手軽な方法で欲しい情報を手に入れることができるようになりました。その一方で、突然見知らぬ業者からダイレクトメールが届いたときなど、自分の情報がどこでどんなふうに使われているのか、不安を感じたこともあるでしょう。

高度情報化社会の到来とともに、以前から指摘されていたプライバシー保護の問題が、住民基本台帳法の改正案で再び新聞紙上ににぎわっています。

プライバシーと 住民基本台帳 改正法案



住民基本台帳改正法案

いま、国会で審議されている住民基本台帳改正法案では、住民票にコード番号をつけて、住所、氏名、生年月日、性別の4情報を全国の自治体とつながるネットワークにのせ、全国センターと呼ばれる機関で一元管理することになっています。国は恩給や共済年金など定められた事務以外には利用することはできず、民間利用もできません。違反者には罰則が定められています。行政機関の事務処理が迅速化されるとともに、国民にとっては、全国どこの市区町村役場でも自分の住民票がとれるほか、申請すれば交付されるカードを使えば、従来必要だった転出転入の手続きが転入届だけで済むという利点があります。情報の保護に万全を期するため、施行には民間部門を含めた包括的な個人情報保護法の制定が条件とされています。

「国民総背番号制」で、情報が守られるのか不安だという批判論と、番号管理のマイナス面を拡大解釈しては情報化社会は成り立たないという賛成論が伯仲しているところです。

プライバシーって何？

少し難しい話にはなりますが、実は日本の憲法のどこを探しても、「プライバシー」という言葉は出てきません。それにも関わらず私たちは、プライバシーは当然守られるべきものと考えています。通説では、憲法に列挙されている人権は、制定当時を考えられていたものであって、その後の社会状況の変化に伴って保護に値するようになった人権は、13条の幸福追求権と呼ばれる規定を根拠に保護すべきであるとしています。プライバシーのほか、環境権、適正な行政手続きを受ける権利などもこの規定を

根拠にしています。

プライバシーに対する考え方は、時代や社会によっても違ってきます。以前は「私事をみだりに公開されない権利」あるいは「ひとりにしておいてもらう権利」でしたが、近年では「自分の情報をコントロールする権利」と考えるのが一般的になりました。

小田原市の プライバシー保護

小田原市の場合はどうなっているのでしょうか。小田原市のプライバシー保護政策は、すでに平成4年度からスタートしている個人情報保護条例で運営されています。この条例で保護しようとしている「個人情報」とは、特定の個人が識別され、また識別され得る情報を指していますので、人の価値観によって異なる「プライバシー」よりも広い範囲を対象にしています。

市役所は、市民の皆さんと直接接する行政機関ですから、所得や所有する土地、建物のことなど、さまざまな情報を管理しています。この条例では、小田原市役所が持っているこのような個人に関する情報を、外部に漏らしたり、市役所内部でも目的外に利用したりすることのないように保護しようとするものです。

市役所は無論ですが、民間での個人情報の管理にもルールが必要だという意見もあります。しかし、小田原市内の民間業者でも市外に事業所を持っている業者は当然いますので、一市町村の条例で統制できるのではないなどの理由から、民間業者が持つ個人情報に関する部分は、この条例では見送られました。

今回の住民基本台帳改正法案では、民間情報を含めた個人情報保護法の制定が条件づけられています。国レベルでこの民間情報の解決が待たれるところです。

環境行動計画を策定

チャレンジしよう! 市民エコ・アクション

身近な環境を守る第一歩。
家庭や職場や学校で
できることから始めましょう。



計画書には、市民編・事業者編・行政編・まちづくり編の4種類があります。

地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化などの環境問題は、私たち人間を含むさまざまな生物が生息する地球の環境を脅かす、重要な課題となっています。

小田原市では、美しい生命の星・地球の危機を自らの問題として考え、環境保全のための行動のみちしるべとなる「環境行動計画」を市民と一緒に策定しました。この計画では、「市民」「事業者」「行政」とそれぞれの立場で環境に配慮するよう、比較的簡単に取り組める具体的な行動（重点行動）と、「地域特性に応じて人と自然の共生する環境づくり」という視点の事項

「エコ・アクション実行市民」への第一歩 ここからはじめよう!

- 駐・停車中はエンジンを止める。
- 排水口の生ごみ受けにはごみをためず、三角コーナーには水切り袋、ろ紙をかける。
- 不法投棄やごみのポイ捨てはしない。
ごみは徹底して分別し、決められた場所に出す。
- 買い物袋を持参し、過剰包装は断る。
- 地元の農林水産物を積極的に購入する。
- 歯を磨くとき、水はコップにくんでおく。
- おふろの残り湯を洗濯や散水などに使う。
- 使っていない部屋の照明は、こまめに消す。
- 小田原の市民団体などの活動を知り、参加・協力する。



をまとめています。

この冊子では、自分のできるところを「エコ・アクション」と位置付け、具体的な行動の実行状況を確認できるように、チェックシートをつけています。

「おだわら
こどもエコ・アクション」

小中学生向けにはこれ。環境にやさしい行動を大きく二つに分類し、

- 1 家の中や学校でやってみよう
- 2 家族と一緒にやってみよう
- 3 友達やグループでやってみよう

参加してみよう

と、それぞれの場面で行動チェックができます。

「市民エコ・アクション
登録制度」

これは、小田原市独自の制度です。重点行動の中から設定した12のメニューの中から、自分でできることを選び、所定の用紙に住所・名前などを記入して市に届けてくださった方を「エコ・アクション実行市民」として登録し、環境に関する情報を提供します。

登録制度のちらしは市役所、支所・連絡所などの市の施設で配布しています。計画書（市民編・事業者編・行政編・まちづくり編）をご希望の方は、環境保全課までご連絡ください。

◎環境保全課 ☎331481

生涯学習セミナー のご案内

毎日の生活に喜びとうるおいを生み出すため、一緒に日々の心を見つめながら、これからの生き方を考えてみませんか。

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| ■テーマ 「心の生涯学習」
～21世紀をよりよく生きる～ | ■参加料 ¥2,000+テキスト代(¥300) 軽食あり |
| ■開催日 平成11年9月7日(火)・8日(水)・9日(木) | ■講師 (財)モラロジー研究所
社会教育講師 |
| ■時間 午後6時30分～9時15分 | ■開催団体 小田原モラロジー事務所
TEL 0465-35-9580 |
| ■会場 尊徳記念館3F(小田原市栢山2065-1)
駐車場あり | ■後援 小田原市教育委員会 |
| ■対象 一般(150名) | |

お申し込み・お問い合わせ 小田原モラロジー事務所 小田原市扇町2-27-12 TEL 35-9580
または 藤沢達雄 TEL 34-2744

味の手作り工房 菜根淡

美味しい素材をマジメに探しつづけていたら、水餃子などすべてにこだわった松原養鶏所(風祭)のマジメな卵に巡り会いました。卵でも野菜でも手抜きなしで作られたものはやっぱり美味しい。良い素材を求め、その良さを一番に引き出す料理を今日もコツコツと。菜根淡のお惣菜・お弁当も誠実、マジメが基本です。

菜根淡2階に隠れ家あり!
1日2組のおもてなし。2,500円コース 要予約
2名様～12名様まで 内容はお問い合わせください。

お弁当 & お惣菜の店 菜根淡 さいこんたん
栄町1-16-38 ☎24-3027

天巻きの 大黒屋長工門
扇町1-25-21 ☎35-0718





一枚の写真がある。

ちょっと愛きょうのある車体に紙で作ったバラの花をいっぱい飾り、人々に囲まれてうれしそうな電車。この電車こそが、小田原の町を走っていた「ちんちん電車」である。本当は市内電車という名前だが、だれもそう呼ばなかった。



電車前左から2番目が桐山さん

ちんちん電車が走った町

小田原一箱根板橋間を走ったこの電車は、現在の国道1号の真ん中を、時速22～23kmと、決して速いとは言えない速さで客を運んでいた。



「当時のはんびりしていたな、人も町も。雨が降ると、傘を持っていない人が押し寄せて、すぐ満員にな

ったっけ」と懐かしそうに語るのは、このセピア色の写真の持ち主、桐山重雄さん。ちんちん電車の運転手だった人だ。運転席と客席との間には一本の鎖があるだけ。世間話をしながらの運転はとても楽しかったそうだ。

戦後の高度成長期を迎えた日本は車社会に姿を変えていった。人々の足は、路面電車から乗合自動車になり、狭い道路の真ん中を走る時速22kmの電車は次第に肩身が狭くなっていった。そして昭和31年、ついにちんちん電車は、営業廃止を迎えた。

5月31日、この日、電車は花形だった。車体は紙の花とモールで飾り付けられ、子供は無料で電車に乗れた。「電車まつり」と名付けられたこの一日、運転手も車掌もお客も楽しんだ。そして、花と子供たちの歓声の中で、ちんちん電車は半世紀にわたるその生涯を終えた。

今、国道1号は、東海道ルネッサンス事業によって電線を地中化し、きれいに整備された。相も変わらず多くの自動車が行き交っている。小田原の大動脈として。



リーディング事業

城下町夢道づくり

ゆめみち

小田原文化を育ててきた「道」

小田原というまちの発展には、いつも「道」が重要な役割を果たしています。

「道」は人と人を取り結び、多くの情報やものを運ぶことで、小田原独自の文化を育てています。その意味で「道づくり」は「まちづくり」になります。

個性と潤いに満ちた道づくりへ

今は物の豊かさより心の豊かさが求められている時代で、道づくりも例外ではありません。個性と魅力があり、高齢者や障害者にもやさしく、さらには災害にも強い道路を目指して道づくりをする必要があります。

お城を中心にして発展してきた小田原は、主要道路がここに集中しています。そこで、小田原城を取り囲む道路について、電線類を地中化して開放感を生み出し、植樹や歩車道

の舗装、沿道の建築物や広告などにも地域の個性を生かした工夫を凝らしていきます。

これが、小田原市の総合計画「ビジョン21おだわら」の中で重点的に取り組む施策「レインボープロジェクト」に位置づけられた「城下町夢道づくり」です。「道」が小田原の個性をはぐくみ、私たちの「夢」を未来の子孫たちへ伝える架け橋になることを目指しています。

小田原早川線・城山曾比線

小田原駅西口に通じる両道路は、骨格的な都市計画道路で、県の事業です。青橋・山手橋などは、小田原城の景観に配慮した整備を行っています。



小田原駅御幸の浜線

小田原駅から御幸の浜海岸に向かう、通称「お堀端通り」と呼ばれる街路。桜並木を生かしながら低木の植栽、自然石歩道、電線類の地中化などにより歴史と文化のまちのシンボルロードにふさわしい景観と防災面に配慮していきます。国道1号から約40mの区間が整備完了済み。



うるおいのあるみちづくり

小田原駅前からスクランブル交差点を経て国道1号に至る、通称「中央通り」と呼ばれる街路。電線類の地中化など、駅前商業拠点のゆとりある明るい空間と歩行者の安全な空間を確保していきます。



東海道ルネサンスの推進

国道1号は、徳川家康が始めた宿駅・伝馬制度の制定400年を2001年に迎えます。県内では、東海道の歴史と文化を生かしたまちづくりを進めています。小田原城周辺の国道1号では、建設省が中心となって電線類の地中化などの整備を行っています。また、沿道の皆さんもこの整備に合わせて景観基準をつくり、建物のデザインや色彩などに配慮したまちづくりに取り組んでいます。

新たにお二人が加わりました

小田原・城下町大使

小田原・城下町大使は、今回のお二人を加えて15人になりました。皆さん、小田原のイメージアップにご尽力いただいています。今回は新大使のお二人に単刀直入突撃インタビューを行いました。

市民交流課 ☎33-1703



小田原北条氏研究の第一人者
小和田哲男さん

静岡大学教育学部教授・文学博士。NHKの歴史番組などの解説でおなじみ。戦国時代を専門とし、専門書から「日本の歴史がわかる本」などの啓発書、さらに「歴史読本」や「ブレジデント」など幅広い執筆活動を展開している。大河ドラマ「秀吉」では、時代考証も務めた。



ホテルオークラ総料理長
剣持恒男さん

株式会社ホテルオークラ常務取締役・総料理長。両親が小田原市出身で小田原で幼少期を過ごす。箱根のホテルで修業の後、ホテルオークラ入社。ヨーロッパでの修業を経て現在、数多くの料理人を率いる総料理長としてホテルオークラの味を守っている。

● 小田原とのご関係は

小田原は大好きなまちです。北条早雲の研究を通じ、歴史見聞館の監修を手がけました。また、昨年は北条早雲サミットのコーディネーターも務めました。8月28日には中央公民館で行われる北条早雲シンポジウムに出演しますので、ぜひお越しください。

● 北条早雲の小和田説とは

論文集「後北条氏研究」に収録された「駿河時代の北条早雲」において、諸説のあった北条早雲の出自を、史料を駆使して「備中出身で一時室町幕府の申次衆だった伊勢新九郎盛時」と断定しました。以後、この小和田説が定着しつつあります。

● コックに重要なものは

コックが一人前となるには10年から15年かかります。当然、外国語の料理本などを読む力も必要となります。重要なものは、味覚とセンスと特に体力。コック志望の若者の腰をたたいて健康状態を確かめることもあります。

● 料理の極意とは

料理には、技術はもちろん素材を見分ける力、香りや味を落とさないタイミング、塩加減の三つが必要です。また、料理は時代とともに変わりますので、いつまでも勉強の連続です。

おいしい空気を次の世代にも

二年連続の 地域環境美化功労者大臣表彰

市内栄町にお住まいの西島邦好さんにしじまくによしが地域環境美化功労者大臣表彰を受賞されました。多年にわたる、街路樹の手入れや周辺の草花の入れ替えなど、地域の環境美化に努められた功績が認められたものです。



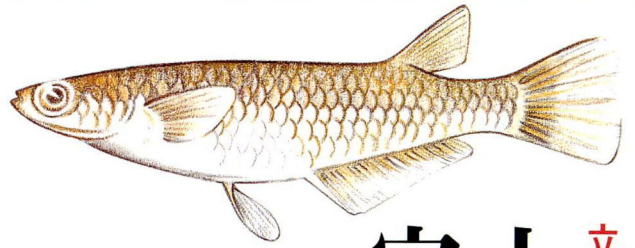
西島さんは、お住まいの近くの新玉新道の空気が、年々増える車の排気ガスのせいで汚れてきたことを肌で感じ、街路樹を植えるための呼びかけを行いました。この結果、歩道に見事な植樹ができ、現在では、木々の下にプランターを置いて四季折々の花を植え、人々の目と心を和ませています。

「この活動を始めたころ、プランターに植える花の費用を捻出するために、朝早くに自転車ですきピンを集めては酒屋で換金してました」と言っていた西島さん。今は、

昨年は、市内成田にお住まいの小島市郎さんがこの賞を受賞しています。また、低公害車の導入などに関して、小田原市役所も地球温暖化防止活動大臣表彰を受賞しました。

これで2年連続の全国表彰
本気です！
環境にやさしい
小田原人





立ち上がる おだわら!

小田原メダカを 守れ!

メダカが絶滅?!
環境庁から淡水域などに生息する魚類のうち絶滅のおそれのある76種が発表されました。なんとそのレッドデータブックの中にメダカが入っていたのです。そこで、「めだかの学校」発祥の地小田原は、メダカを守るため立ち上がりました。



小田原は美しいまち。この自然をいつまでも守りたいと願う市民の熱い思いがこのまちを美しくしています。初夏の風物詩・ホタルを守れと活発な市民活動が行われたことも記憶に新しいことでしょう。絶滅の危機に瀕している小田原メダカを守るため、平成9年に設立された「市民メダカ会議」が検討してきた「里親制度」が、いよいよスタートします。

募集 メダカの里親

メダカを繁殖し育てている市民団体がいま。あなたもメダカの里親になりましょう。大きな水槽がなくてもだいじょうぶ。プラスチックのパックやバケツですてきなメダカの教室をつくれれば、あなたの家庭でも、小田原メダカを繁殖できます。育ったメダカは、皆さんと一緒に自然に帰していきます。

対象 市内在住在勤の方30人・先着順
申込 8月16日(月)までに、
環境保全課 ☎331484
市では今後も里親制度を広めていきます。

メダカ・ミニセミナー 「小田原メダカとその育て方」

小田原の固有種「小田原メダカ」をもっと知り、その育て方を学びましょう。里親になれなくても「育ててみたい」というあなた。ミニセミナーへの参加をお待ちしています。

日時 8月22日(日) 10時~12時
場所 小田原アリーナ研修室
講師 県水産総合研究所 勝呂尚之さん
定員 100人(当日先着順里親30人含む)

小田原の自然を守る!

市民・事業者・行政が協力し、ホタルやメダカなどと共生できる環境づくりが市内で広がっています。ほうきやスコップを片手に、あなたも活動してみませんか。

環境清掃に取り組む市民グループ(螢々会)

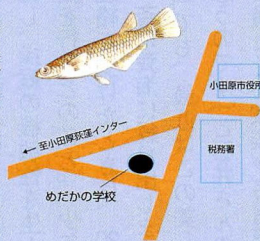


めだかのめだま その2 小田原メダカ

以前は全国どこの川や池にも生息していたメダカですが、今では一部の地域でしか野生の姿を見ることができません。一般にお店で売られている赤いメダカはヒメメダカといい、観賞用に改良されたものです。小田原メダカは南日本集団特有のDNA(遺伝子情報)を持ったクロメダカ。市内では農業用水の一部に生息しています。メダカは生息する地域によって微妙に遺伝子が異なるそうなので、ほかのメダカを放さないでください。また、心ない人によってクロメダカが乱獲されています。市民一人ひとりが協力して、小田原生粋のクロメダカを守りましょう!

めだかのめだま その1 童謡「めだかのがっこう」は小田原生まれ

日本全国で親しまれ、いまでも思わず口ずさむ童謡「めだかのがっこう」は、童謡作家の茶木滋さんが作詞されました。終戦当時、買い出しの途中、荻窪用水で息子さんと交わした会話をもとにこの詩を作られたそうです。当時の小田原ののどかな景色が思い浮かびます。この童謡の発祥地荻窪に、水と緑に親しめる水辺の景観モデルとして、平成8年に「めだかの学校」が開校しています。



小田原動物園に“トキ”の仲間



毎日、午後3時ごろがえさの時間。楽しく観察してください。

今年5月に佐渡で生まれたトキ、優^{ゆう}のニュースは、とても明るい話題として報道されました。この、優^{ゆう}は、学名を「ニッポニア・ニッポン」といい、絶滅のおそれのある世界的にも希少な国際保護鳥に指定されています。世界中に生息している23種のトキの仲間のほとんどは熱帯地方に生息しています。が「ニッポニア・ニッポン」は佐渡などの寒い地域に生息する珍しい種類です。ところで、小田原動物園に「トキ」の仲間がいるのをご存じですか?
小田原のトキは、コウノトリ目トキ科のシロトキ三羽。南アメリカの原産で、保護鳥になつているトキと大きさ、形などはほとんど同じですが、羽の色に多少の違いが見られます。
トキ科の仲間は湿地などの水辺に生息し、長くくちばしを泥や水草の中にさし込んで、小魚やエビ、貝類、昆虫などの小動物を食べます。

☎観光課 ☎231373

まいたうん
レポート



豪快にジェットスキーを操る石井さん。海・風・空が一体となる瞬間である。

波しぶきの中で
考える一人の船長

「酒匂川河口の海は、川の流れと相模湾から寄せる黒潮がぶつかっていい波ができます。ジェットスキーの一人船長として、その波しぶきを体にあびて、意のままに大海原を駆け巡れば、そりゃあ最高です」と、小田原ジェットクラブの会長を務める石井久二さん。

ジェットスキー愛好者200人のリーダーである彼の日焼けした顔から、白い歯がのぞく。休日には午前中から日没まで仲間と楽しむという。やっぱり小田原の海はすてきだ。

ジェットスキーは排気量が500ccから1200cc、5級小型船舶操縦士以上の資格が必要である。事故のないよう安全には細心の注意を払わなければならない。酒匂川にかかる西湘バイパスの上流には行かない、釣り船と定置網の近くに寄らない、投げ釣りの人の顔が見えるまでは近づかないなど、石井さんのグループでは、守りつづけているルールがある。

待て、次号!

いよいよ決定
新15日号の
新しい名前

生まれ変わった広報おだわら15日号。一か月分のイベントや講座など、生活に密着したお得な情報が満載と、ちまたでは好評! ワイドショーでも取り上げられそうな勢いです(?)。5月15日から始まった新15日号の名前募集には、114通の工夫を凝らした作品が寄せられました。新名称は8月15日号で発表します。ご期待ください!
◎広報広聴室 ☎33-1261

「でも、最近はこの美しい海を見ていつも思うのです」と石井さんの顔が曇る。それは会員とその家族が毎月第3日曜日、ボランティアで行っている海岸の美化のこと。特に花火のシーズンや台風の後などは、サーファーの人たちをはじめ海の愛好者約200人と汗を流すという。「用意した袋が足りないくらいのごみを見るたびに、さびしくなりますね。美しい海岸はみんなで守りましょう」。

「ジェットスキー愛好者のチームワークは抜群。水難事故があったときにも会員が協力し、操縦の機敏性を生かした救助・捜索活動を行うとのこと。」「少年が川で流されたと連絡を受けたときは、20艇、全船の仲間が一斉に荒海に繰り出しました」。



美しい海を未来へ受け継いでいきたい。海を愛する者たちが、率先して清掃ボランティアを行っている。会員が仕事で使っているパワーシャベルが活躍するときは、工事現場のような迫力である。

やめられない
お菓子たち

栄町 松坂屋のあかがね門もなか

門のかたちをした最中
3つの味で新登場!

備中から取り寄せた大納言でつくる特製餡のつぶつぶ感は別格。ほかに梅・ごま餡も。店主の長年の願いがなつて、登録商標「もなか」の新発売。銅門復元記念くもなみ受けにいかがでしょう。アミーおだちか店も、1個130円 栄町本店/栄町1の16の46 ☎22-3020 第3水確定休



Odawara Driving School

当校は、安全行動のとれる初心運転者の育成に努力しています。

教習科目

大型・けん引・普通・普通自動二輪

〈ローン制度あり〉

荏田駅より徒歩5分

スクールバスあり



神奈川県公安委員会指定

小田原ドライビングスクール
蓮正寺540-2 TEL (36) 1215~7

ただよりのわいものはなし 悪質商法にご注意!



「今日の2時にここに行くと、パンや洗剤がただでもらえるのよ。」一緒に行かない?」ある朝、隣の奥さんがそう言いながら、チラシを持って私の家に来てくれました。そのチラシには、健康の話を聞きに来た人には、粗品進呈と書いてありました。不審に思いながらも、聞くだけだったと安易に参加してしまったのが、いけなかったのです...と語るAさん。

民家の軒先にテントを張った会場には、

社員数人と、勧誘されてきた高齢者や主婦が10人ほど座っていたそうです。時間になると、一人の男性社員が面白おかしい話をしながら、参加者に品物を渡し始めました。だんだん雰囲気盛り上がりだすと、なぜか高級羽毛布団の話になり「今買えば断然お得、さあ皆さんの書類にサインを」と言っています。気がつくと、強面の社員に囲まれ、契約するまで帰してもらえず、怖くなったAさんは、とうとう30万円もする布

団の購入契約をしまいました。

このような悪質業者が、最近市内でも横行しており、被害者も増加しています。中には、脅したり暴力的な行動をとったりする業者もいます。万一契約してしまったても、「自分が悪いのだから」とあきらめず、すぐに消費生活センターまたは市の市民相談までご連絡ください。クーリングオフなど無条件解約できる場合もあります。契約のトラブルが生じたときは、一人で悩まずに、専門家に相談しましょう。きつとよいアドバイスが得られます。

市民相談 ☎331383

(消費生活相談は金曜日9時~16時)

消費生活センター ☎226321

落ち葉 を使って花栽培

芦子小学校の腐葉土づくり

芦子小学校の近く「市役所けやき通り」には、その名の通り両端に50本近い大きなけやきが植えられています。ここでは、秋に見事な黄葉が見られます。しかし、黄葉が終わると道路に

終わると道路に

葉が落ち、掃除が大変でした。そんな中、芦子小学校の児童が、平成9年度からけやきの落ち葉を使って、腐葉土づくりを始めました。

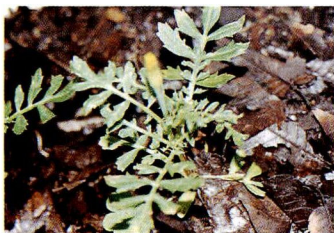
昨年行われた全校生徒による「落ち葉拾い大作戦」で集めた落ち葉は、市の指定ごみ袋(45リットル入り)になんと約250個分。

腐葉土づくりは、もちろん子供たちによ

る手作業。プールの横に積まれた大量の落ち葉に水をまき、米のとき汁をかけてかき混ぜる作業が行われます。「落ち葉をひっくり返すときに風で飛ばしたり、水をまくときに洋服がぬれたりするので大変だけど、楽しい。落ち葉拾いのときに、歩いている人から『道路がきれいになったね』と言われたときはとてもうれしかったです。近所の人も手伝ってくれたんです」と、6年生は話してくれました。

昨年、芦子小学校では、この腐葉土で育てた花を市立病院にプレゼントしました。今年には保育園などにも贈る予定です。また、花だけでなく腐葉土自体も分けてあげるそうです。

さて、どんな花が咲くのでしょうか。楽しみですね。



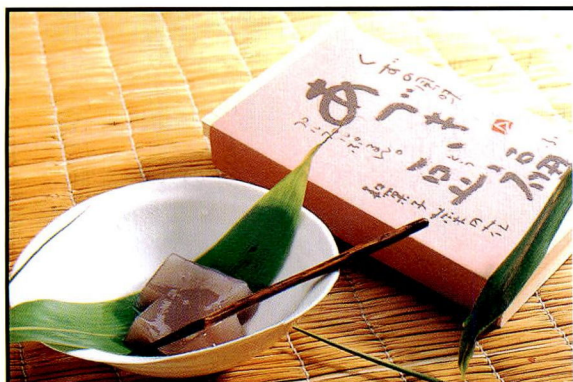
あづき豆福

あづき豆福が、こんなにヒットするとはおもいませんでした。夏の和菓子はたいへんむずかしく、のどごしがよくなければならないし、夏バテを防ぐような健康的な素材でありたいということで、小豆は基本としても、海藻や吉野本葛を加えて、プルプルとした感触がたまらなくうれしいのです。冷やして召し上がりください。決めてはやはり(水)です。1箱700円(冷凍可)

葉の花店主 高橋台一
小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567 営業時間/午前10時~午後6時

安土 忠久 ガラス展 8月6日(金)~8月29日(日)

●うつわ・葉の花 TEL(24)7020 11:00AM~6:00PM OPEN 水曜定休



夏を生きる つる植物

クズの葉の
不思議

夏季のつる植物

暑い夏、人が気力をなくすのとは対照的に、つる植物は最盛期となります。この時期小田原の野山は、至る所がつる植物の緑葉で覆われます。そして、花にはみつを求め、チヨウやハナバチの昆虫たちが集まり、にぎわいます。

中でも目を引くのは、クズ、ヤブガラシ、

豊かな自然に恵まれた小田原。住み慣れてしまうと見過ごしがちなこの大きな財産を、このコーナーで見つめ直します。知らなかった生き物や植物との出会いが楽しみです。

日本自然保護協会 自然観察指導員
常盤 博(城山)

ヘクソカズラ、カラスウリ、カナムグラなどの仲間です。つる植物は、湿気のある場所や日陰に育つなど、独特の生き方と生活環境への適応力があります。

その中でも、クズの生活力は旺盛で、小田原でも夏のつる植物の王者といえます。また、夏の高温など厳しい環境を乗り越えるために、光量や水分を調節する秘訣を葉が備えています。花はエンドウに似て蝶形花、

紅紫色で、強い日差しを避けて葉の陰に群れて咲きます。

ほのかにブドウのような香りがして、いかにも野の花の風情に満ちています。この花や香りを求めて、野山に入る愛好家も多いようです。

クズの名前の由来

昔、大和・吉野地方の「国栖」に住む山人が、植物の根から作った粉を都で売り歩きました。そこからこの粉を「葛粉」と称し、植物を「クズ」と呼ぶようになったと言われています。現在も「吉野葛」として知られ、昔ながらの伝統製法で作られています。

葛粉に小麦粉を混ぜて水で溶き、木わくに流して蒸した葛餅は、糖蜜ときな粉をかけていただきます。葛粉からつくった葛湯「葛根湯」は、風邪薬として飲用されています。幼心の思い出に、こまやかな舌ざわりと温もりの味の記憶を持たれる方も多いでしょう。

クズは日本人の遠い祖先の時代から、人々の食料、薬用、衣料(茎の繊維など)にあますところなく利用した有用植物であったようです。また、秋の七草の一つにも数えられ、夏の暑さに耐えて咲く美しい花や葉が、万葉の人の心をとらえました。

万葉集では17首の詩歌に詠まれています。

萩の花 尾花 葛花 などでこの花
をみなへし また藤袴 朝顔の花

(山上憶良)

延ふ葛の 絶えず思はむ 大君の
見しし野辺には 標結ふべしも

(大伴家持)

小田原の野山を覆う緑のマント

クズはつる植物の中でもマメ科に属します。つる(茎)は木質化して固くなり、地面をほう節から根を出して増えます。夏の成長期には、一日に20センチメートルも伸びます。

葉は三枚の小葉からなる複葉で、小葉には小さい托葉たくようがあります。また、葉柄ようへい、小葉の基部は膨らみ、葉枕ようまくらとなっています(図参照)。

葉の裏面は灰白色で毛が密生し、わずかな風でも葉がひるがえり、葉の裏の白さが目立ちます。別称「裏見草」の由来はここから来ています。

根はでんぷんを蓄え、人の腕ほどに太くなるものもあります。この根を砕いて何回か水にさらし、乾燥させたものが葛粉になります。

葉の膨圧運動 自動開閉システムを内蔵

この運動は、植物が環境に合わせた、巧みな生活方法の成せる技といえます。植物細胞が、光



小田急線斜面(城山)に生育するクズ。切り通しや丘陵林道筋の斜面を覆っています。

や温度などの刺激の強さによって変化し、葉に運動を起こさせる現象です。クズ、オジギソウ、ネムノキなどのマメ科植物などに多く見られます。

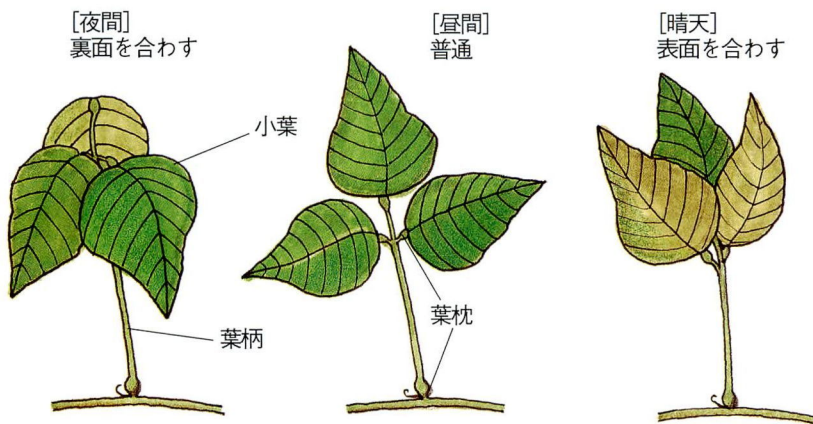
クズの葉の基部である葉枕は、光の強さに刺激され、水を吸って膨らんだり出してしぼんだりして、細胞膜の張力(膨圧)を変化させ、葉を開閉します。一般には葉を閉じて、日中の受光量や水分発散量を少なくしています。また、夜間に葉を垂らす(葉の裏面を合わせる)睡眠運動も同じ原理で、動物同様の休息時間となります。

これは、クズをはじめとするマメ科の植物が、長い進化の過程で獲得した特殊技能で、ハイテクなみの自動開閉システムを内蔵しているといえるでしょう。

帰化植物のドラマ アメリカに渡った日本のクズ

「よその国から入り込んだ植物で、野生の状態です育っているもの」を帰化植物と呼んでいます。

おなじみのオオイヌノフグリ、セイヨウタ



葉の膨圧運動

ンポポ、シロツメクサ、マツヨイグサなどは、江戸末期から明治初めにかけて欧米から日本に渡来し帰化した植物です。新天地ということもあり成長も早く、繁殖力も盛んで、日本各地に分布を広げています。

反対に日本から他国に渡った植物は、その国の帰化植物になります。米国にあるクズは、「建国100年記念博」(1876年)に日本が出品したのが始まりです。家畜の飼料、緑肥、土壌保全が目的で、盛んに成育するところから、一時米国農業の救世主になったようです。

しかし現在では、あまりにも成長力が強すぎるため、野生化したクズが、送電線の鉄塔をはじめ他の樹木に巻き付いてしまい、厄介な雑草に転じています。帰化植物の迷惑は、どうもそれぞれお互いさまのようです。

かつて日本で猛威をふるったセイタカアワダチソウ(北米原産のように、自然の摂理で他の植物と共生し、バランスのとれた住み分けができる)といいますが。

最近、繁茂しすぎて時に厄介視されるクズではありますが、自然豊かな小田原のクズのおりなす、すばらしいメカニズムに触れてみてください。

この秋 小田原アリーナがおもしろい

9月23日祝
～26日

99国立ポリシヨイサーカス

手に汗握るスリル満点の「空中ブランコ」や「アクロバット」、大迫力の「虎のサーカス」、疾走する馬と人の息合った曲芸「ジギト」、かわいい「犬や猿のサーカス」、爆笑を誘うピエロ・・・など、魅力たっぷりの2時間。

歴史と伝統に培われたロシア国立ポリシヨイサーカスが誇る鍛え上げられたアーティストたちの演技を、ぜひ、この機会に!!



■気になるお値段はこちら

- S 指定席 5,000円
- A 指定席 4,500円
- B 自由席 3,000円

■小田原公演日程

	9月23日祝	24日金	25日土	26日日
10:30~	◎	×	◎	◎
13:30~	◎	×	◎	◎
16:30~	◎	◎	×	×

■チケットのお求めは

小田原公演事務局	☎21-3311
小田原アリーナ	☎38-1144
チケットぴあ	☎03-5237-9999
ローソンチケット	☎03-3573-1012(Lコード37128)

※◎印がご覧になれます

10月8日

金

大相撲小田原場所

全国有数の規模を誇る小田原アリーナで、「大相撲小田原場所」を開きます。

本格的な吊り屋根、マス席をつくり、本場所さながらの横綱の土俵入りや幕内、十両力士の取り組みのほか、初切や相撲甚句など巡業ならではの多彩なプログラムを用意しています。心・技・体のすべてを一瞬に燃焼させる相撲のダイゴ味を存分にお楽しみください。



■チケット販売

7月30日金 10:00から小田原アリーナにて販売。電話予約はできません。

◎大相撲小田原場所事務局(体育協会内)
☎24-8077

■興行内容(予定)

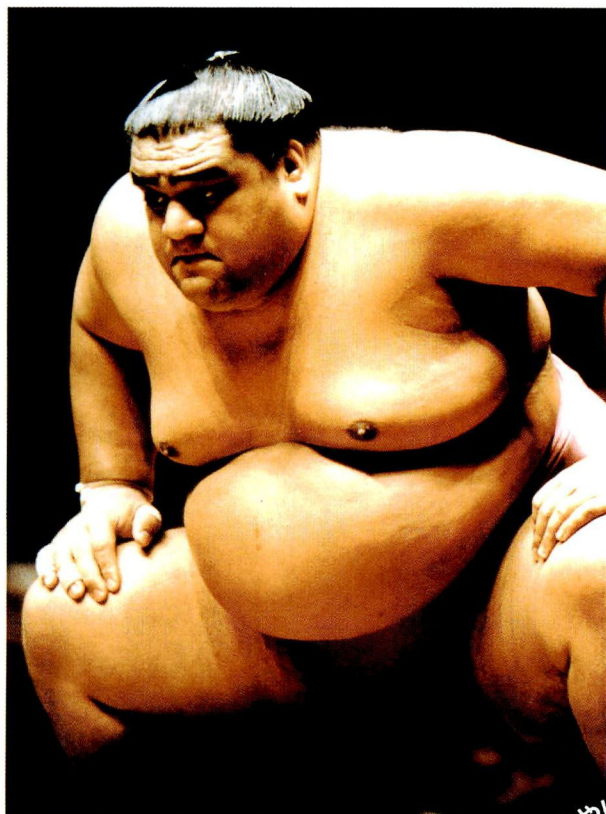
- 8:00 開場～公開けいこ
- 11:00 序二段、三段目取り組み
- 12:00 幕下取り組み
- 13:00 十両土俵入り
- 13:20 十両取り組み
- 13:45 幕内・横綱土俵入り
- 14:00 幕内取り組み
- 15:00 打ち出し【終了】

■料金

- タマリ席(1人).....14,000円
- マス席A(4人).....44,000円
- マス席B(4人).....38,000円
- 特別イス席(1人).....7,500円
- イスA席(1人).....6,000円
- イスB席(1人).....4,000円
- 自由席(大人).....2,000円
- 自由席(中学生まで・1人).....500円



活躍が期待される小田原・城下町大使の朝乃翔関



心におみやげ、
見つけて小田原。